

会長退任のご挨拶



前之園 幸一郎

私は、今回、北海道において開催された第54回全国大会を機会に日本モンテッソーリ協会(学会)会長(理事長)の職を辞することに致しました。2007年から今日まで15年間にわたって絶えず励ましとご助言を賜り、温かいご支援を下さいました会員の皆さま方に心からの感謝を申し上げます。現在、年々充実した全国大会が各地で順繰りに開催されるようになり、本協会が時代の変化に即応しながらモンテッソーリ教育の発展普及に大きな力を発揮する役割を着実に果たしていることはまことに喜ばしいかぎりだと存じます。

思い起こしますと、私は偶然にも唐突にモンテッソーリ教育に遭遇することになりました。2000年11月16,17,18日に、モンテッソーリ生誕の地、イタリアのキアラヴァッレ市とイタリアモンテッソーリ協会共催の国際会議「21世紀とマリア・モンテッソーリ」がキアラヴァッレ市内において開催されました。50数年前のローマ大学留学時の恩師マウロ・ラエング先生の推挙でこの大会において「日本におけるモンテッソーリ教育の現状について」報告するように依頼を受けました。名前のみは知っていても、モンテッソーリについてはほとんど白紙状態の私は、勇を鼓して上智大学にルーメル先生をお訪ねしました。その場で事務局長の松本良子先生を紹介されました。そして関係資料の閲覧のためには本協会の「会員になって頂きます」の松本先生の一言で、即刻入会手続きを致しました。

にわか仕込みの準備ではありましたがキアラヴァッレの国際会議では慣れないイタリア語で無事報告することができました。日本人は私だけでした。この会議に参加した収穫の一つは、同じく報告者で出席されていた白髪の小柄なご婦人と知り合いになれたことでした。そのお名前はリタ・クレーマーと名刺にあり、著名な人物であることを後で知りました。

本協会会員としては毎年全国大会で研究発表を行うことを目標に心がけました。イタリアを中心にした文献研究で自分なりに理解しえたモンテッソーリについて報告を行いました。ある年の全国大会でルーメル先生に呼び止められ、次回から「会長を君にお願いしたいと考えている」とのお言葉を頂きました。教育の現場において日々子どもたちと接する教育実践の具体的な経験のない未熟者の私が何とか責任を果たし得ましたのは会員の皆さま方のお支えあってのことだとありがたく存じております。

退任するに当たり佐々木信一郎新会長のもとで本協会が一段の躍進を遂げることを心から祈念いたしております。

会長就任のご挨拶



佐々木 信一郎

この度、日本モンテッソーリ協会の重責を理事会の皆さまのご推挙を頂き、努めさせて頂くことになりました。伝統ある学会の運営を仰せつかるには、まことに微力ではございますが、会員の方々のご助言、ご協力を仰ぎながら責務を全うしていく所存です。

私事ではありますが、常任理事として、また、直近1年間は、前之園幸一郎会長のもとで副会長として本学会の運営に携わせて頂きました。その中で、先人の方々の業績を振り返り、日本モンテッソーリ協会(学会)の歴史について学ばせて頂きました。また、これからの学会運営についての多くのご示唆を頂きました。

モンテッソーリ協会は学術団体である以上、モンテッソーリ教育の学問的発展と、それを踏まえて現場における魅力的な先生方の育成が大きな課題であると認識しています。そのため、研究者と実践者、両方にとっての学会であるという原点に返り、両者にとって意義のあるものになるように。そしてまた、研究者、実践者ともに若手が育つ協会(学会)にしていきたいと思えます。少子・高齢化社会の中にあっては、この問題は急務であると認識しています。

また、ここ数年のコロナ禍という未曾有の経験は、我々をオンラインでの大会開催に追い込みました。オンラインと対面それぞれにメリット、デメリットがあり、今回は、オンラインのメリットについて多くの方が知ることになりました。その結果、ポストコロナにおきましても、対面を基本としながら、オンラインを併用していくという流れに終止符を打つことができない状況になってしまったと思います。今後は、ポストコロナ時代の新しい大会のあり方を模索しながら、より魅力的で、有意義な大会が実現できるよう鋭意検討を重ねて参りたいと思えます。

最後になりますが、本学会は、モンテッソーリ博士の教育を研究し、普及することを使命としています。その際、一番大切なことは、ひとり一人異なる子どもの幸せを考えるということです。個人崇拜、名声、利益のためにするものではありません。1951年ロンドン国際モンテッソーリ大会の挨拶でモンテッソーリ博士は「指である私ではなく、私が指し示しているわたしの指先の先にあるもの、(子ども)に注意を向けてください」といっています。彼女は、自分への個人崇拜も忌み嫌い、子どもの幸せを第1に考えていました。このモンテッソーリ博士の精神に照らせば、私たちは、ひとり一人異なる(障害がある子ども、貧困にある子ども、虐待を受けている子どもなど)全ての子どもの幸せを考える、さらにはその幸せの意味をモンテッソーリ教育を通して考える学会であるという初心を再確認することが必要だと思えます。

以上の柱に基づき、学会運営をしていきたいと思えます。子ども達ひとり一人の幸せのために、今まで先人が積み上げてきた成果を踏まえ、新旧理事の方々と本学会の発展に精進する覚悟でございます。皆様のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

略儀ながら書中をもちまして理事長就任の挨拶とさせていただきます。